



南郷

札幌市立南郷小学校

学校だより 第7号
令和7年 9月30日

【学校電話】011-861-9305

【学校ホームページ】

<https://www.nango-e.sapporo-c.ed.jp/>



暖房機の消し方は…～子は親の鏡について考える～

校長 関根 治彦

「ちょっと、やめてもらえない。」

息子が2歳になって間もないころ、家族で出かけようとしたときに、私が暖房機のスイッチを足で押して消そうとしたら、妻から注意をされました。そして、そのあと「ほら、見てごらん」と言われ、振り返ると息子が暖房機の横の飾り棚に右手をついて、左足の先で暖房のスイッチを切ろうと悪戦苦闘しているのです。反省…。

子どもは、親の言葉や行動、そして周りの環境での出来事を注意深く観察し、まるでスポンジのようにそれらを吸収します。大人が無意識に行う小さな仕草、何気ない一言、他者への接し方、困難に直面したときの態度。これらすべてが、子どもたちの人格形成に大きな影響を与えているのです。例えば、家庭内で常に感謝の言葉が交わされている環境で育った子どもは、自然と他者への思いやりを身に付けます。逆に、不平不満や批判的な言葉が飛び交う環境では、子どももまたそのようなネガティブな感情を抱きやすくなってしまいかもしれません。

ある日、私はショッピングモールで、幼い子どもがレジの店員さんに「ありがとう。」と笑顔で言っている姿を見かけました。その子の母親もまた、子どもに向かって「ありがとう、えらいね。」と声を掛け、店員さんにもこやかに「ありがとうございます」と頭を下げていました。この親子のやり取りを見て、私は心が温かくなると同時に、自分の子育てを振り返らざる得なくなりました。私は自分の子どもたちにそんな姿を見せることができていたのだろうか。まさに「子は親の鏡」という言葉を実感しました。親が他者を尊重し、感謝の気持ちを言葉にしているからこそ、子どももそれを自然と学び、実践しているのです。

もちろん、親は決して完璧な存在ではありません。子育てには、思い通りにいかないことや、つい感情的になってしまう瞬間も多々あります。子育てに正解はなく、親として常に最善を尽くすことは難しいでしょう。しかし、大切なのは、完璧であろうとすることではなく、子どもたちの前で、正直な自分自身の姿を見せることではないでしょうか。失敗を素直に認め、謝ることができ、そして再び立ち上がろうと努力する親の姿は、子どもにとって何よりも力強い手本となります。

「子は親の鏡」という言葉は、時として親に重いプレッシャーを与えるように感じられるかもしれません。しかし、それは決して親を責める言葉ではありません。むしろ、子どもを通して自分自身を映し出し、親として、そして一人の人間として成長していくための貴重な機会を与えてくれる言葉だと捉えるべきです。

子育てとは、親が子を一方的に育てる行為ではなく、親もまた子どもから多くのことを学び、共に成長していく「共育」のプロセスなのです。子どもたちの無邪気な笑顔、純粋な好奇心、そして時に見せる驚くほどの洞察力は、私たち親が忘れかけていた大切なものを思い出させてくれます。

親が笑顔でいれば子どもも笑顔になり、親が希望をもって生きていけば、子どもも未来に夢を描くことができる。私たちは子どもたちの姿を通して、自分自身を深く見つめ直すことができるのです。そして、親が自分自身と向き合い、より良い自分であろうと努めるその姿勢こそが、子どもたちの心を豊かに育む一番の栄養となるのではないのでしょうか。自分への自戒を込めて…。